

# 公益財団法人国際通貨研究所 平成 30 年度事業計画書

平成 30 年度は、マクロ経済に関し、特に先進国での景気拡大局面の持続性が問われる年になると考えられます。日米欧の中央銀行の出口戦略を受けた長期金利動向や、各中央銀行の温度差を踏まえた為替相場動向、さらにその実体経済への影響が焦点となる中で、これらが金融為替市場における波乱要因となるおそれがあります。また、中国に関しても、いよいよ具体化する第 2 期習近平政権の経済政策運営になお不透明感があるなど、今後の内外経済を取り巻く環境は、必ずしも楽観視できない状況にあります。

こうした問題意識のもと、国際通貨・金融を専門とする公益シンクタンクとして、独自性ある調査研究テーマを追求し、成果を幅広く社会に還元することにより、我が国および世界の金融経済社会の安定と発展に貢献して参ります。

## 1. 本年度は、以下を重点テーマとして、自主調査あるいは委嘱調査の形で調査研究活動を実施いたします

調査研究の枠組みは、従来通り「主要通貨動向やその背景にある実体経済と金融動向の分析」、「エマージング諸国のカントリーリスクを中心とする分析」、「国際金融に関するグローバルな課題の分析」の 3 つの側面から取り組みます。具体的なテーマとしては、

- ・我が国や欧米先進国における金融政策の課題や金融為替市場の分析
- ・エマージング諸国の通貨金融環境のリスク分析
- ・中国経済・金融の実態と政策の分析
- ・フィンテックなどの新しい金融フロンティアの分析

の 4 点を重点に掲げ、レポート・刊行物などによる調査研究成果の発信、他の研究機関などとの情報交流の両面で取り組んで参ります。

また、上記のようなマクロ経済動向の調査・分析に加え、これまで培ってきた知識・経験を活かしつつ、国際経済社会に関わる先見性に富んだ問題提起や政策提言を行い、引き続きグローバルな金融市場の発展に貢献いたします。

## 2. 公益法人としての調査研究成果の对外公表、情報発信、外部との交流、普及啓発活動を推進いたします

- (1) 世の中の注目度が高く、かつ当研究所の調査研究活動の重点テーマと関連するテーマについて、内外の識者をパネリストとする国際金融シンポジウムを開催します。テーマの候補としては、先進国の中央銀行の出口戦略、およびその金融為替市場や新興国への影響、ポピュリズムや保護主義が強まる中での新たな世界経済秩序の模索、また我が国を含むアジアにおける地域経済・金融協力の現状と今後のあり方といった事項が挙げられます。
- (2) 平成 29 年度には、他研究機関と共同で東アジアにおける経済・金融協力に関するワークショップや、日銀の金融政策や BREXIT 等をテーマとした、エコノミスト等を招いての小規模な研究会を開催いたしました。引き続き、他の研究機関等との情報交流を積極的に行い、最新の情勢、専門家の知見の吸収、調査研究の深化に努めて参ります。
- (3) ホームページの充実、メールマガジンの継続的な発行により、調査研究の成果を広く社会に発信、還元します。また、新聞・経済専門誌やテレビなどの外部メディアへの寄稿、出演、取材についても積極的に対応し、情報発信力を強化します。
- (4) 国際金融に関する諸問題の普及啓発を推進するため、公的機関が主催する研修や教育機関における講義、セミナーへの講師派遣などを実施いたします。また、国際交流の推進の一環として、外国・本邦の大学、大学院からのインターン受入れも積極的に行います。

以 上